

痙縮（手足などの筋肉のつっぱり）の治療

鳥取生協病院 リハビリテーション科 岩田勘司

「痙縮」とは？

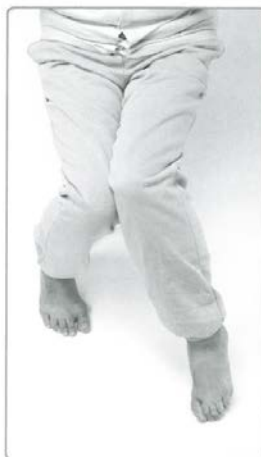
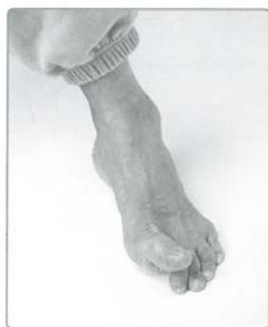
脳卒中や脊髄損傷でよくみられる運動機能障害のひとつに、「痙縮（けいしゅく）」という症状があります。痙縮とは、筋肉が緊張しすぎて、手足が動きにくかったり、勝手に動いてしまう状態のことです。

痙縮では、手指が握ったままとなり開こうとしても開きにくい、肘が曲がる、足先が足の裏側のほうに曲がってしまうなどの症状がよく見られます。

痙縮による姿勢異常が長く続くと、筋肉が固まって関節の動きが制限されてしまい（これを「拘縮（こうしゅく）」といいます）、日常生活に支障が生じてしまいます。また、痙縮がリハビリテーションの障害となることもあるので、痙縮に対する治療が必要となります。

手足の筋肉のつっぱり^{けいしゅく}（痙縮）は次のような症状をひきおこします

- 手の指が、握ったまま開かない
- ひじや手首が曲がったまま伸びない
- 膝が曲がったまま伸びない
- つま先立っていて歩けない(歩きにくい)
- 手足がつっぱって痛い



痙縮の治療は？

現在、痙縮の治療には、代表的なものに、以下のようなものがあります。

1) 内服薬 (のみぐすり)

緊張している筋肉をゆるめる働きのある薬を服用します。

2) 機能的神経ブロック療法

筋肉を緊張させている神経に、フェノールやアルコールなどを注射して、神経の伝達を抑制します。

3) ボツリヌス療法 (ボトックス注射)

筋肉を緊張させている神経の働きを抑える、ボツリヌストキシン (ボトックス) という薬を注射します。

4) バクロフェン髄注療法

バクロフェン (ギャバロン) という痙縮を抑制する薬の入ったポンプを、手術によっておなかに植え込んで、薬を脊髄 (せきずい) 周辺に直接投与します。

5) 外科手術

筋肉を緊張させている神経を部分的に切断したり、神経の太さを縮小したりします。
筋肉を部分的に切断することもあります。

当院では、患者様の状態に応じて、適切な治療を選択して行っております。

このパンフレットでご紹介した症状でお困りの方は、お気軽に御相談ください。

■ご相談・お問い合わせ先：

鳥取医療生協 鳥取生協病院 リハビリテーション科

〒680-0833 鳥取市末広温泉町 458 電話 0857-24-7251 (代)